

令和3年度 リハビリテーション部 クリニカルインディケーター

目次

- ・当院リハビリテーション算定内容
- ・リハビリテーション患者内訳
- ・月別新患内訳
- ・算定単位数

当院リハビリテーション算定内容

- ・脳血管リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・がん患者リハビリテーション料

脳血管リハビリテーション料（Ⅰ） 施設基準

- ①専任の常勤医2名以上（1名は当該リハの3年以上の経験者又は研修会等の受講歴・講師歴がある者）
- ②専従の常勤理学療法士が5名以上
- ③専従の常勤作業療法士が3名以上
- ④専従の常勤言語聴覚士（兼任可）1名以上
- ⑤②～④の従事者総数10名以上
- ⑥専用の機能訓練室160㎡以上、言語聴覚療法は8㎡以上の個室 などが要件

脳血管リハビリテーション料の対象患者

- ①急性発症した脳血管疾患又はその手術後の患者
脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳外傷、脳炎、急性脳症（低酸素脳症）、髄膜炎、など
- ②急性発症した中枢神経疾患又はその手術後の患者
脳膿瘍、脊髄損傷、脊髄腫瘍、脳腫瘍摘出術などの開頭術後、てんかん重積発作、など
- ③神経疾患
多発性神経炎（ギランバレー症候群等）、多発性硬化症、末梢神経障害（顔面神経麻痺等）、など
- ④慢性の神経筋疾患
パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、遺伝性運動感覚ニューロパチー、皮膚筋炎、多発性筋炎、など
- ⑤失語症、失語及び失行症並びに高次脳機能障害の患者
- ⑥難聴や人工内耳植込手術等に伴う聴覚・言語機能の障害を有する患者
- ⑦顎・口腔の先天異常に伴う構音障害を有する患者
- ⑧舌悪性腫瘍等の手術による構音障害を有する患者
- ⑨リハビリテーションを要する状態であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力及び日常生活能力の低下を来しているもの
脳性麻痺等に伴う先天性の発達障害等の患者であって、治療開始時のFIM115以下の状態等のもの

廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)施設基準

- ①脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)を届け出ている。
- ②脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準における専任の常勤医師、専従の常勤理学療法士、専従の常勤作業療法士及び専従の言語聴覚士は、それぞれ廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)の専任者又は専従者を兼ねるものとする

廃用症候群リハビリテーション料の対象患者

- ①急性疾患等に伴う安静(治療の有無を問わない)による廃用症候群であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力、日常生活能力の低下を来しているもの
(治療開始時において、FIM115以下の状態等のもの)

運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 施設基準

- ①専任の常勤医1名以上
 - ②専従の常勤理学療法士又は専従の常勤作業療法士が合わせて4名以上
 - ③専用の機能訓練室100㎡以上
- などが要件

運動器リハビリテーション料の対象患者

- ①急性発症した運動器疾患又はその手術後の患者
 - ・上・下肢の複合損傷（骨、筋・腱・靭帯、神経、血管のうち3種類以上の複合損傷）
 - ・脊椎損傷による四肢麻痺（1肢以上）
 - ・体幹・上・下肢の外傷・骨折、切断・離断（義肢）
 - ・運動器の悪性腫瘍、など
- ②慢性の運動器疾患により、一定程度以上の運動機能及び日常生活能力の低下を来している患者
 - ・関節の変性疾患
 - ・関節の炎症性疾患
 - ・熱傷瘢痕による関節拘縮
 - ・運動器不安定症、など

呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） 施設基準

- ①専任の常勤医1名以上
- ②専従の常勤理学療法士又は専従の常勤作業療法士が合わせて2名以上
（1名は当該リハの経験を有する専従の常勤理学療法士）
- ③専用の機能訓練室100㎡以上
———などが要件

呼吸器リハビリテーション料の対象患者

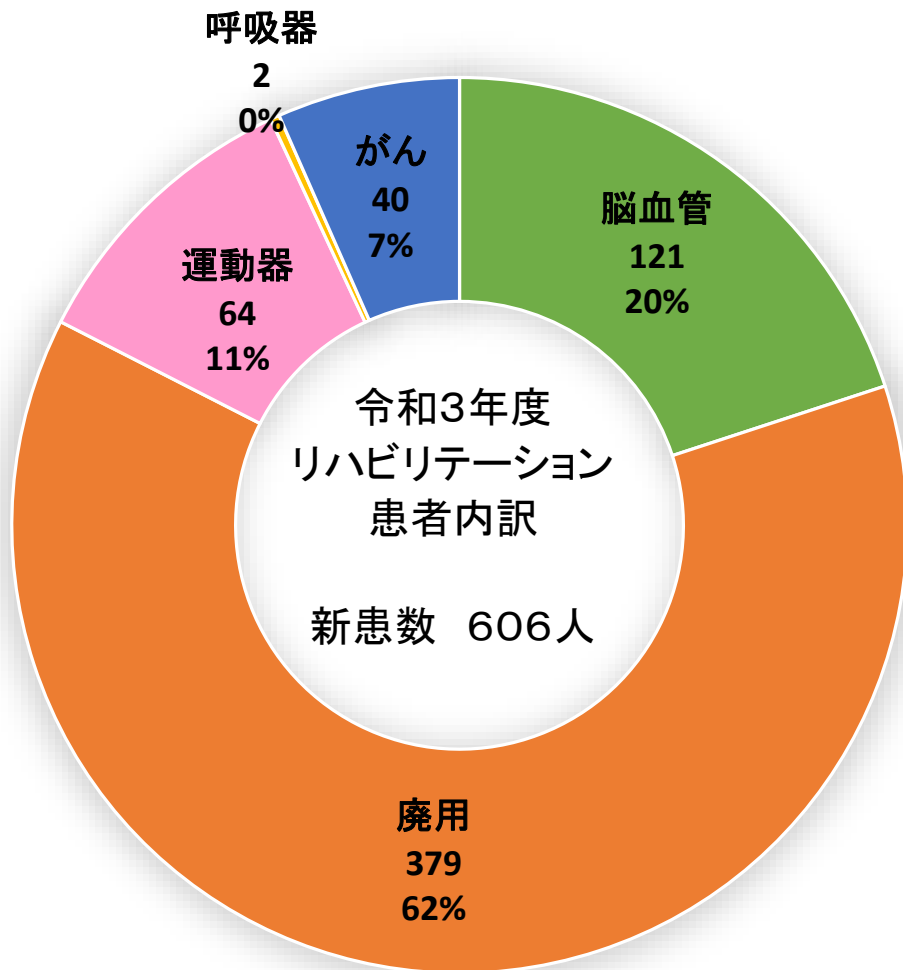
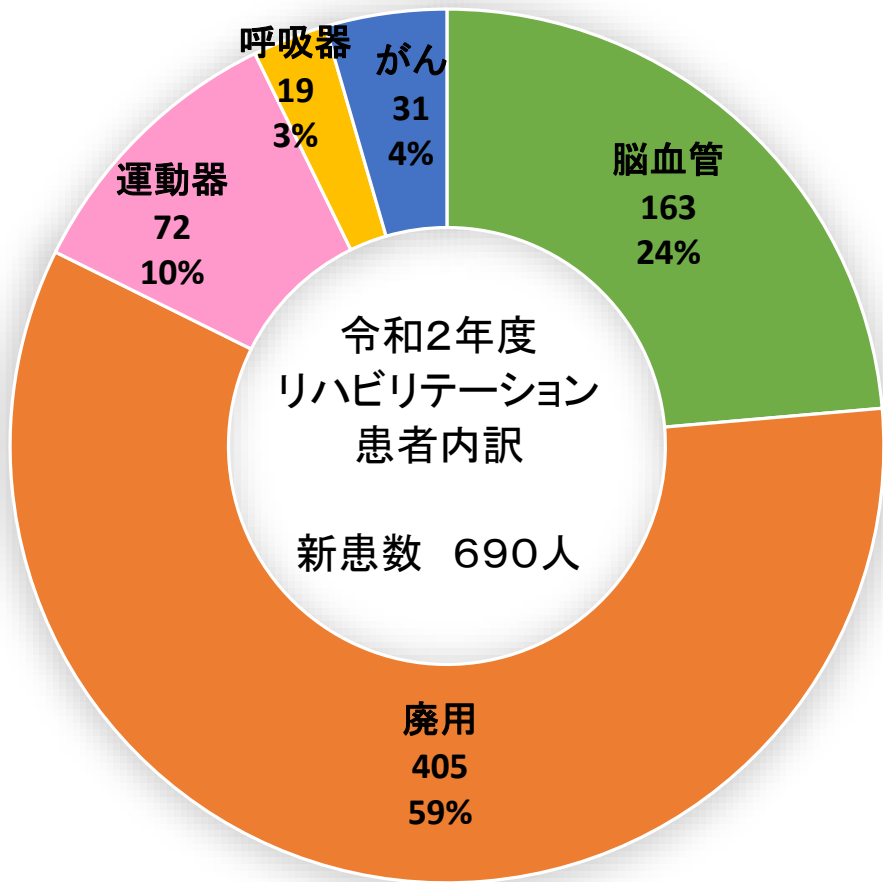
- ①急性発症した呼吸器疾患の患者
肺炎、無気肺、など
- ②肺腫瘍、胸部外傷その他の呼吸器疾患又はその手術後の患者
肺腫瘍、胸部外傷、肺塞栓、肺移植手術、慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対するLVRS
（Lung volume reduction surgery）等の呼吸器疾患又はその手術後の患者
- ③慢性の呼吸器疾患により、一定程度以上の重症の呼吸困難や日常生活能力の低下を来している患者
慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、気管支拡張症、間質性肺炎、塵肺、びまん性汎気管支炎（DPB）、
神経筋疾患で呼吸不全を伴う患者、気管切開下の患者、人工呼吸管理下の患者、肺結核後遺症等のもの
であって、次の（イ）～（ハ）いずれかに該当する状態であるもの
 - （イ）息切れスケール（Medical Research Council Scale）で2以上の呼吸困難を有する状態
 - （ロ）慢性閉塞性肺疾患（COPD）で日本呼吸器学会の重症度分類のⅡ以上の状態
 - （ハ）呼吸障害による歩行機能低下や日常生活活動度の低下により日常生活に支障を来す状態
- ④食道癌、胃癌、肝臓癌、咽・喉頭癌等の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者
食道癌、胃癌、肝臓癌、咽・喉頭癌等で、これらの疾患に係る手術日から概ね1週間前の患者及び手術後の
患者で、呼吸機能訓練を行なうことで術後経過が良好になることが医学的に期待できる患者

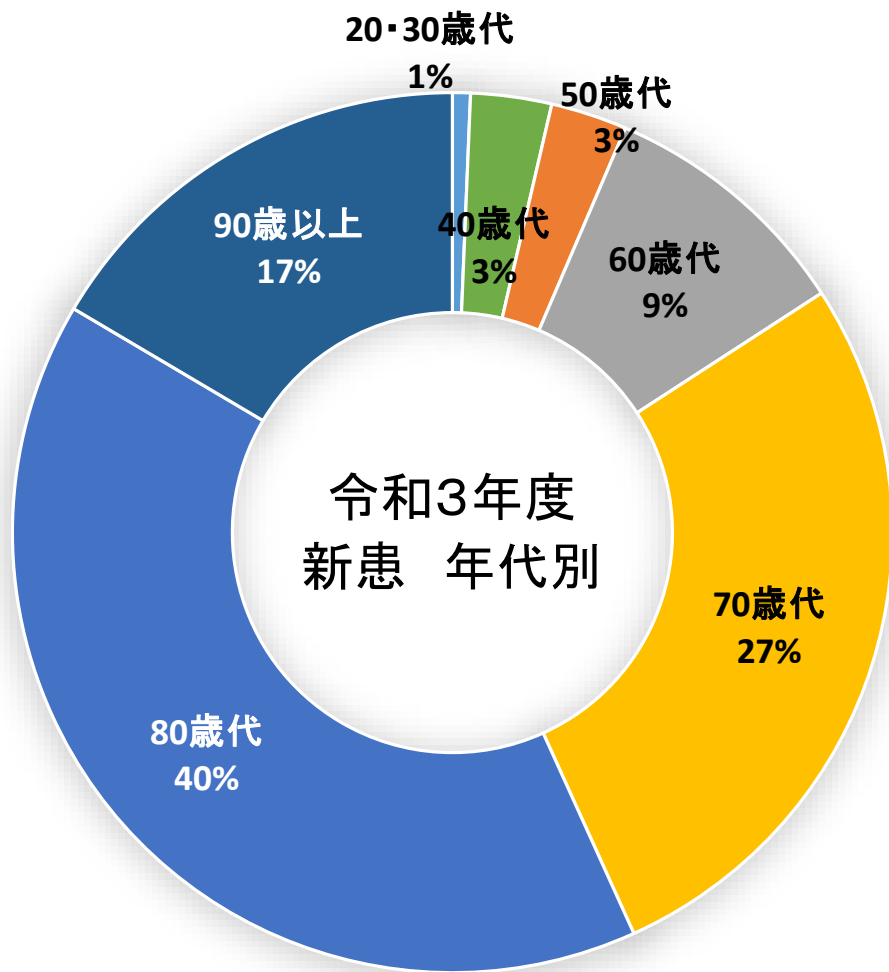
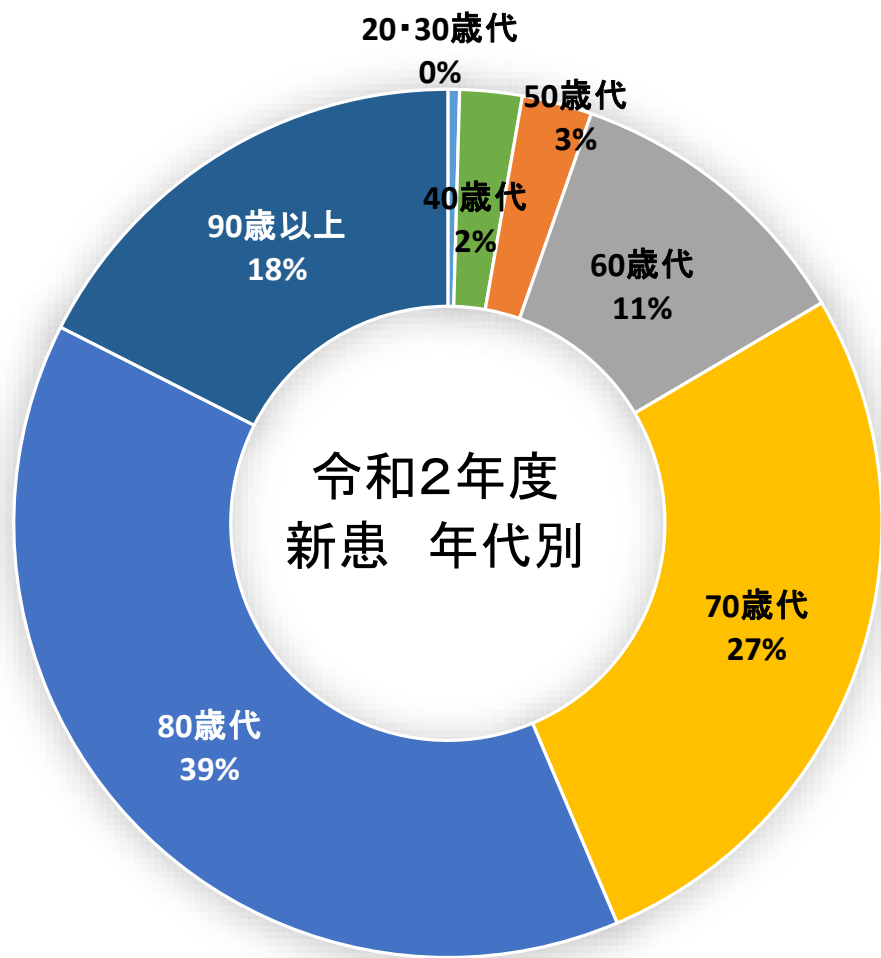
がん患者リハビリテーション料 施設基準

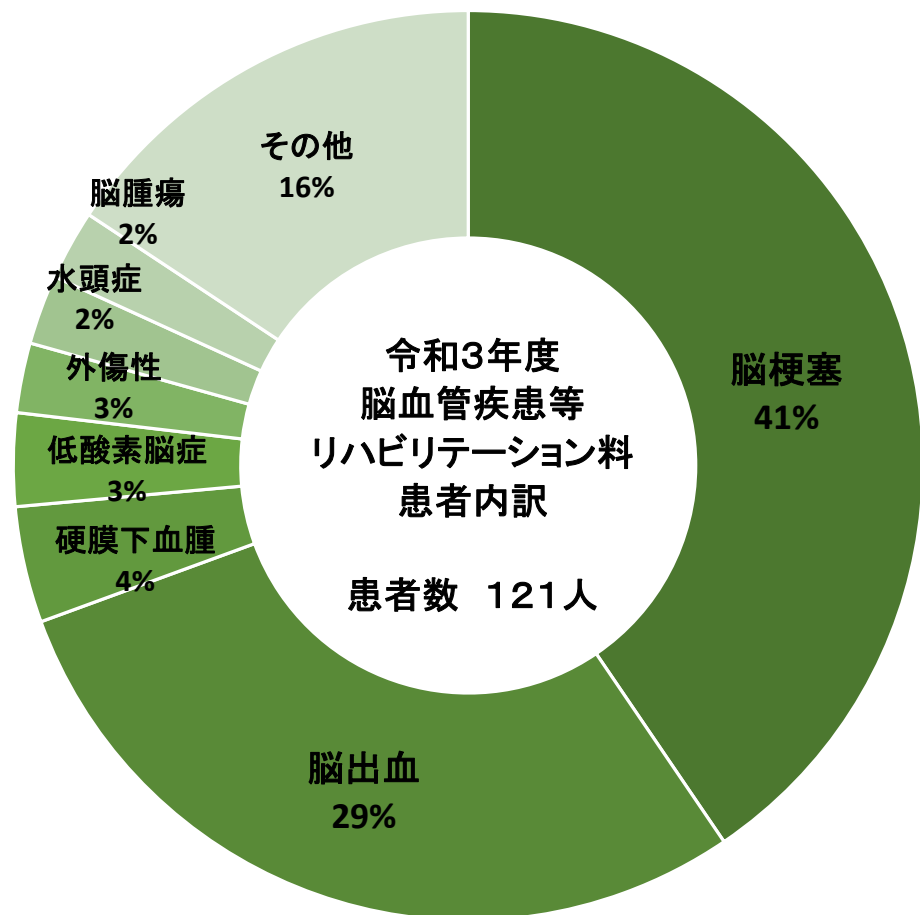
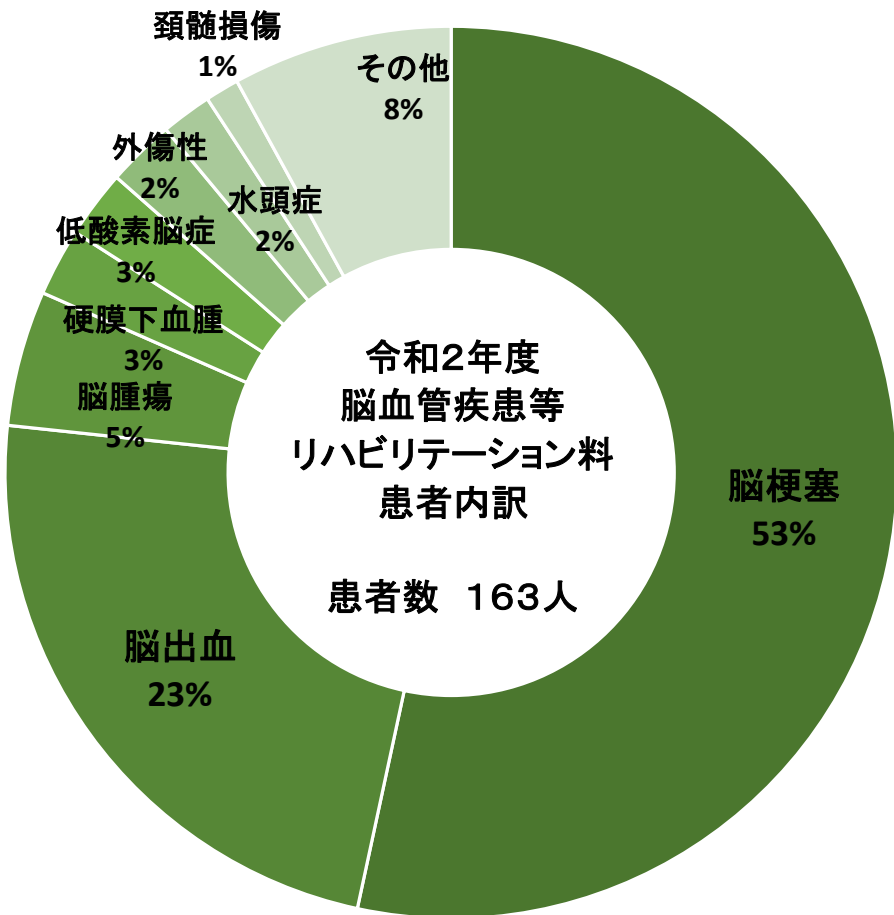
- ①十分な経験を有する専任の常勤医1名以上
- ②十分な経験を有する専従の常勤理学療法士・常勤作業療法士又は常勤言語聴覚士を2名以上配置
- ③専用の機能訓練室100㎡以上
- ④リハビリテーション総合実施計画書1を算定している。月に1回以上作成している。
- ⑤脳血管リハビリテーション料・廃用症候群リハビリテーション料・運動器リハビリテーション料・呼吸器リハビリテーション料との併算定不可
——— などが要件

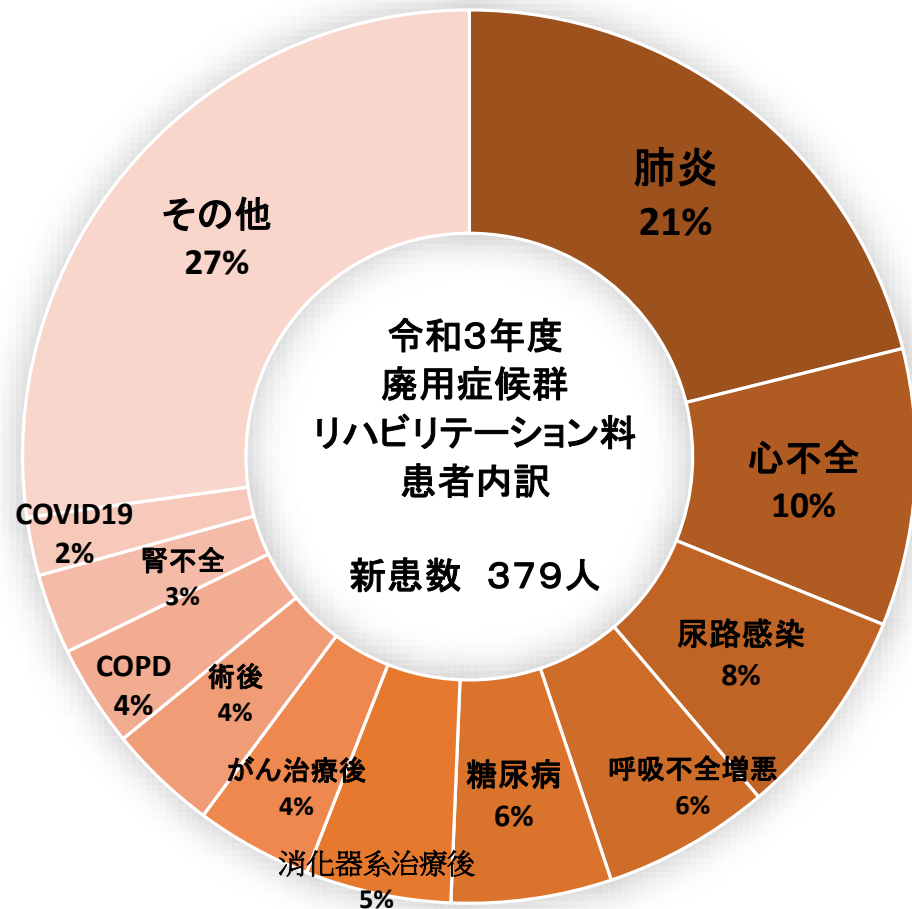
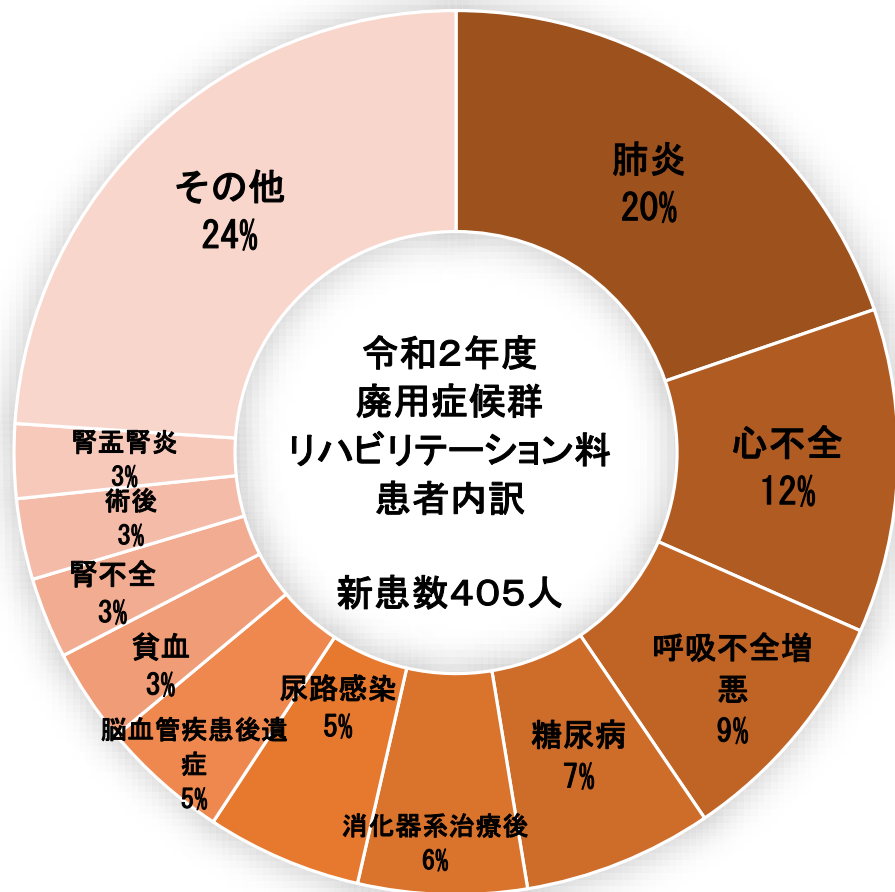
がん患者リハビリテーション料の対象患者

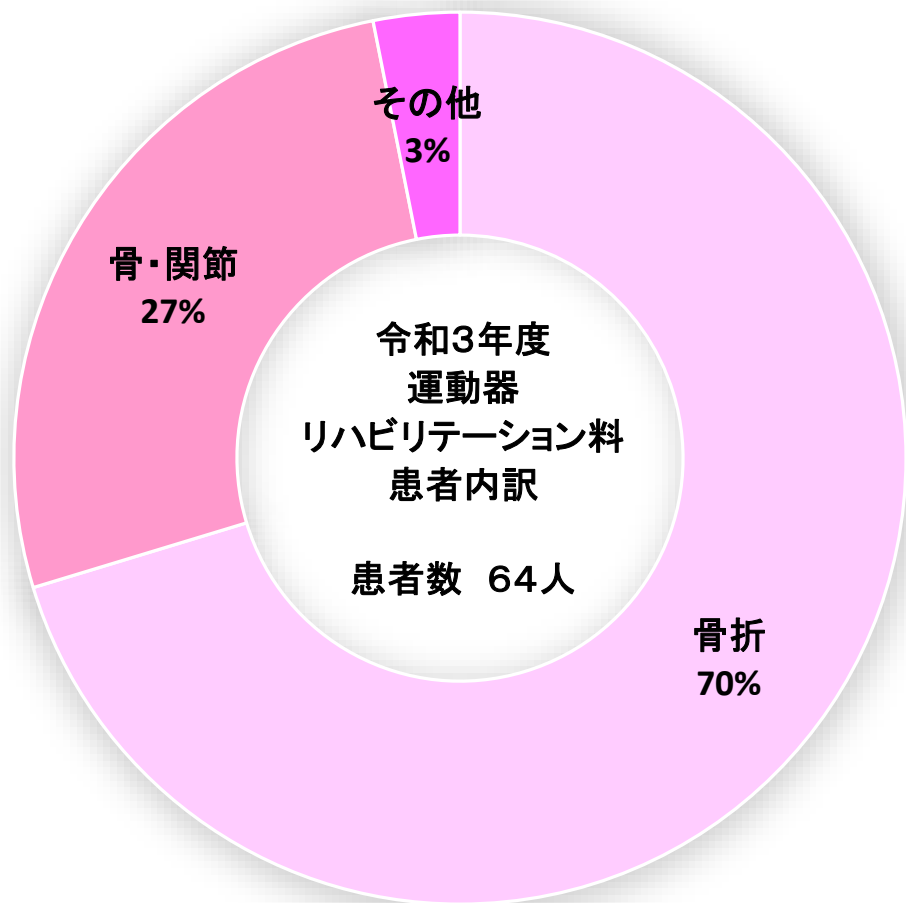
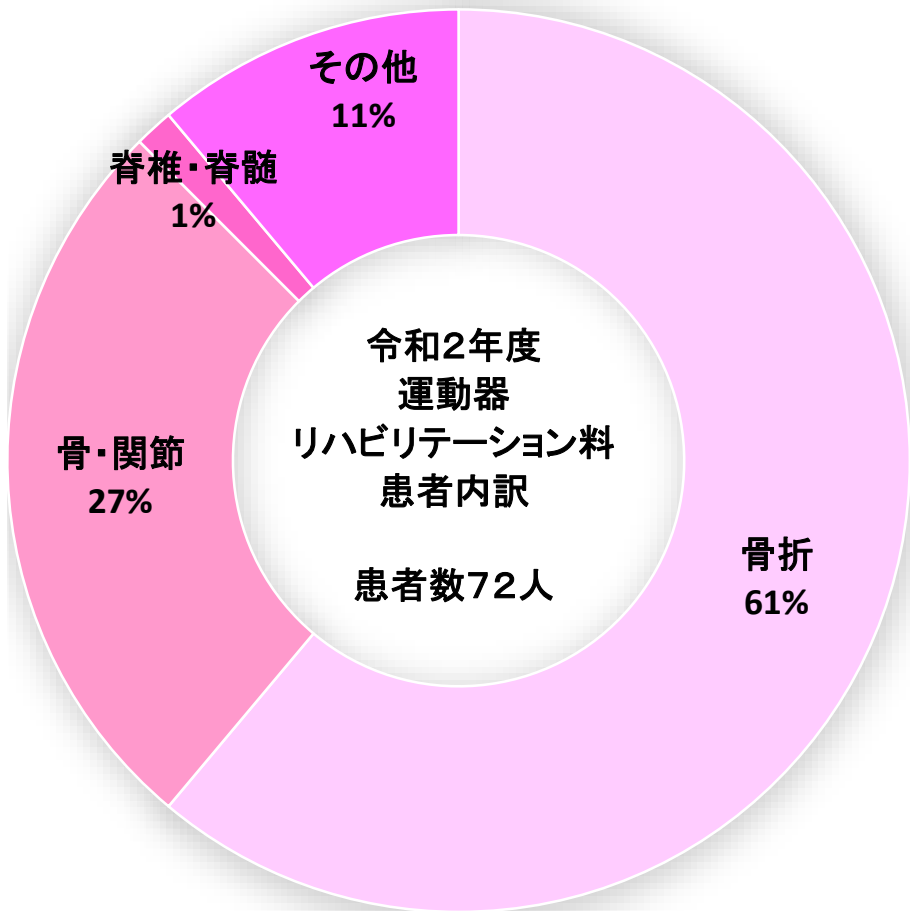
- ①がん患者であって、がんの治療のために入院している間に手術、化学療法（骨髄抑制が見込まれるものに限る）、放射線治療もしくは造血幹細胞移植が行われる予定のもの又は行われたもの
- ②緩和ケアを目的とした治療を行っている進行がん又は末期がんの患者であって、症状の増悪により入院している間に在宅復帰を目的としたリハビリテーションが必要なもの

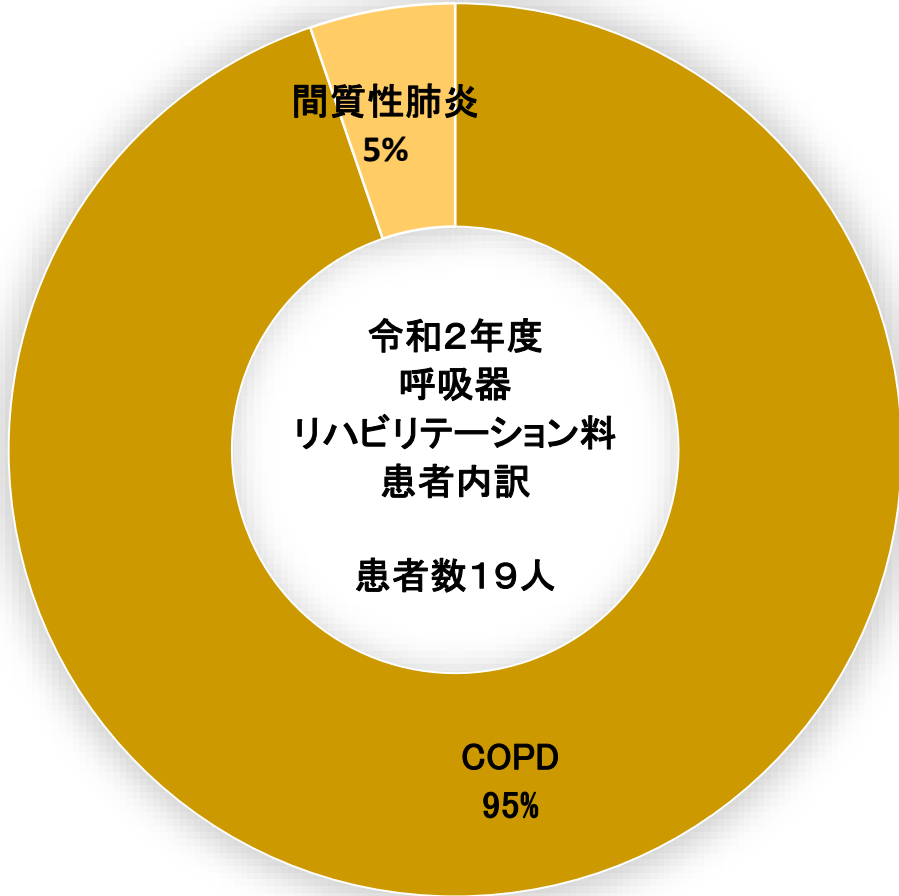


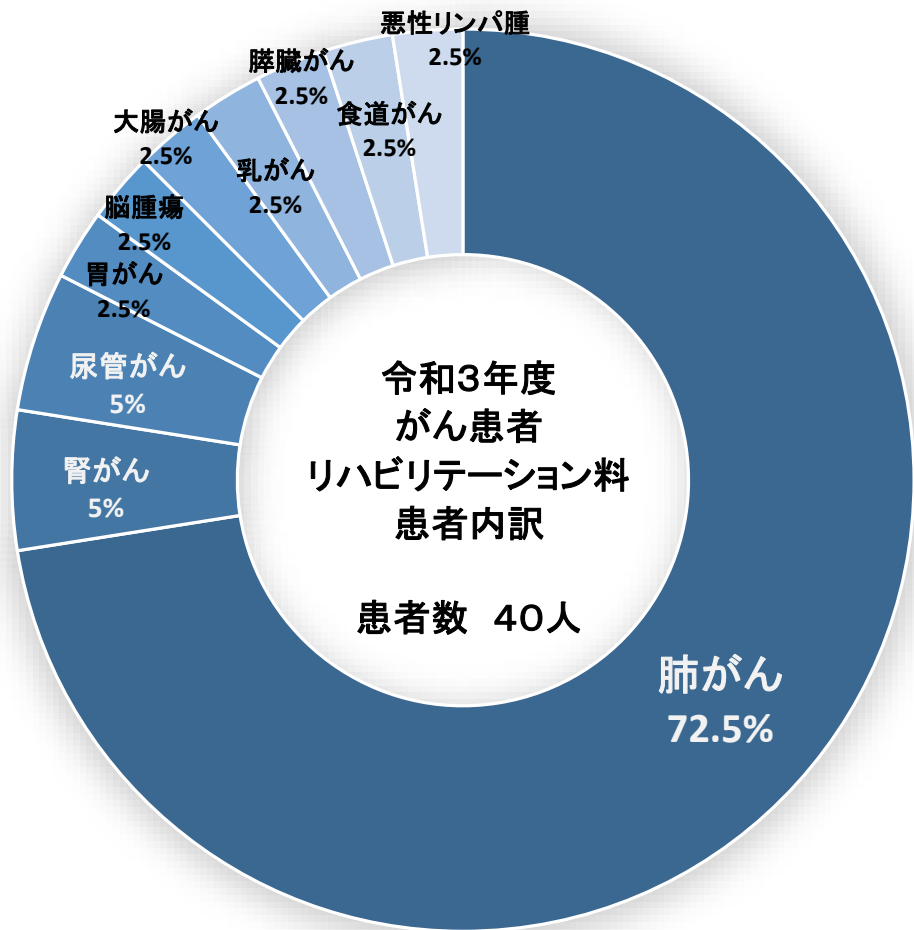
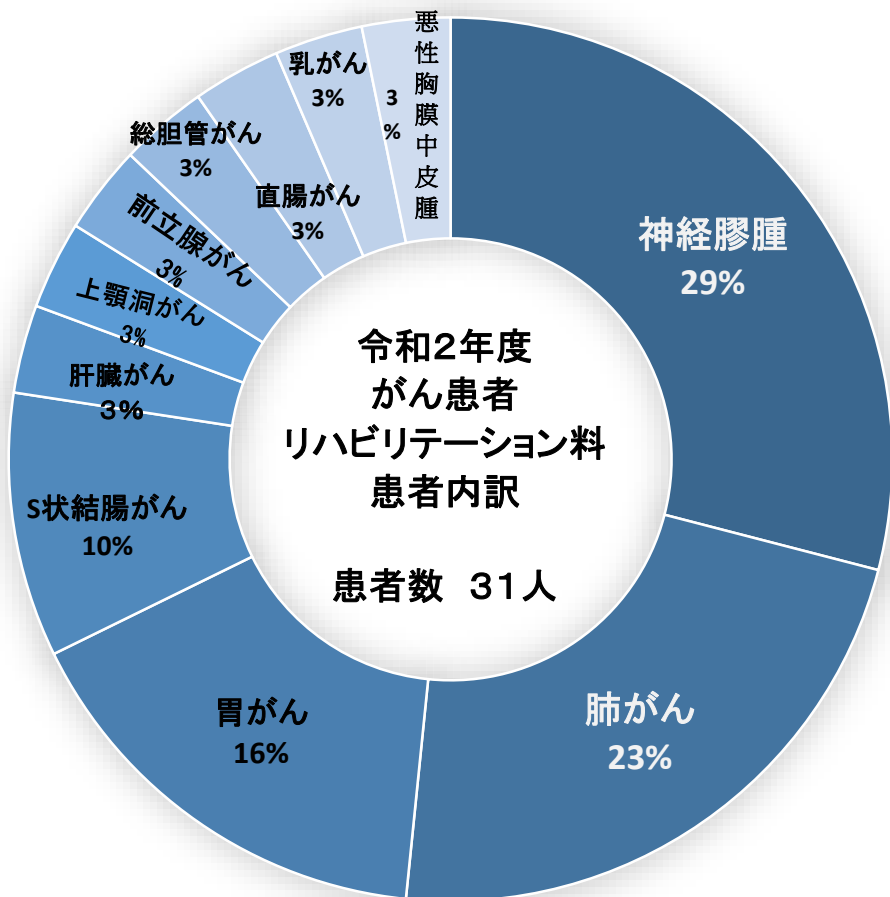




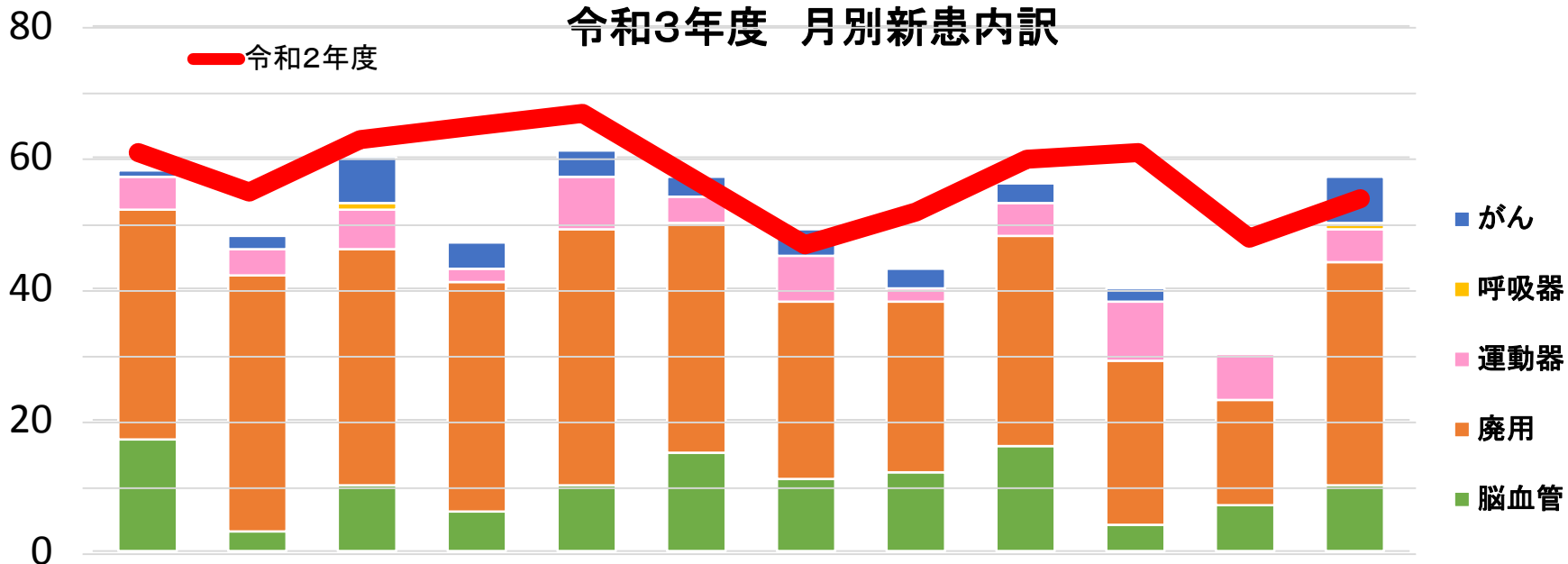






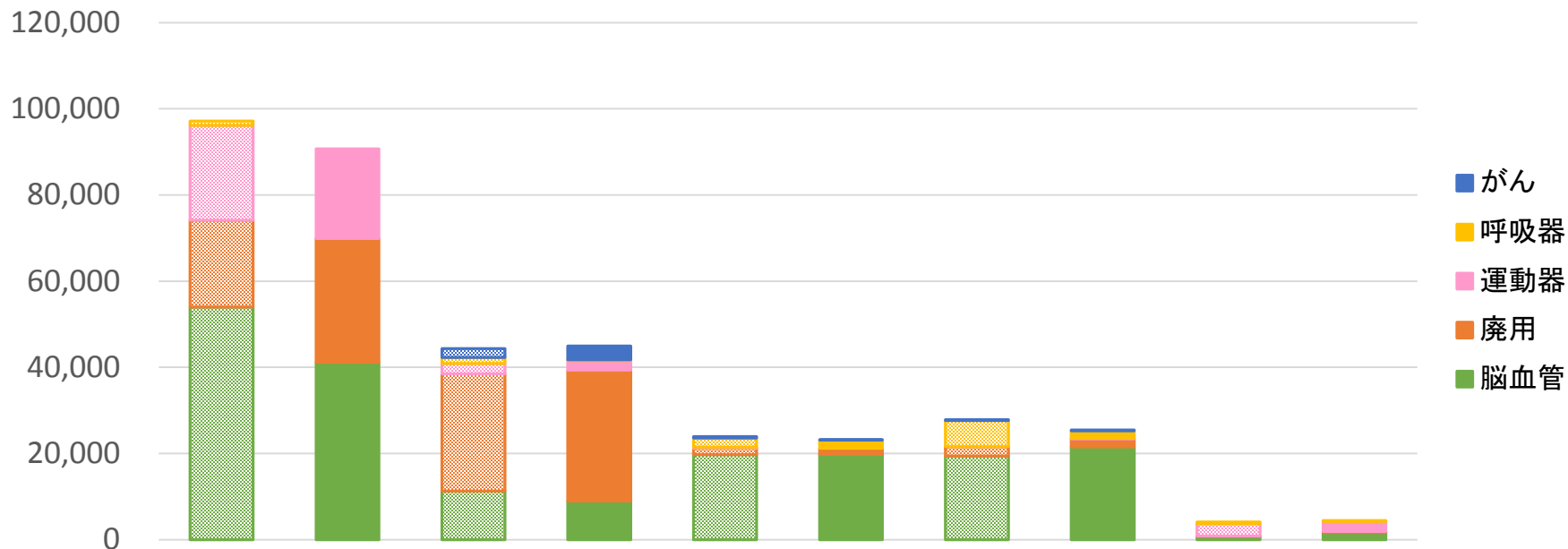


令和3年度 月別新患内訳



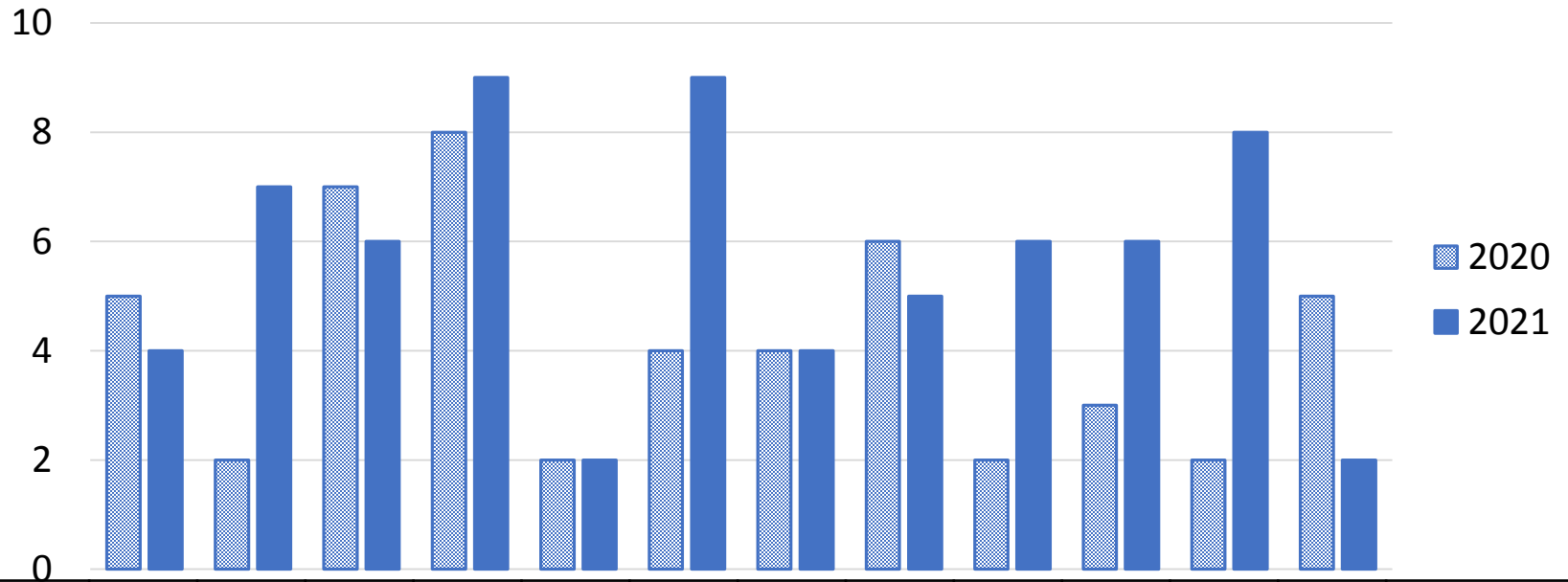
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
がん	1	2	7	4	4	3	4	3	3	2	0	7	40
呼吸器	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
運動器	5	4	6	2	8	4	7	2	5	9	7	5	64
廃用	35	39	36	35	39	35	27	25	32	25	16	34	379
脳血管	17	3	10	6	10	15	11	12	16	4	7	10	121
合計(人)	58	48	60	47	61	57	49	43	56	40	30	57	606

各病棟・外来 疾患ごとの リハビリテーション合計単位数前年比



	回復期病棟		一般病棟		療養病棟 1 (コスモス)		療養病棟 2 (ひまわり)		外来		合計 (単位)	
	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度
がん	0	0	2,056	3,165	297	96	209	196			2,562	3,457
呼吸器	995	0	1,386	246	2,170	1,940	6,044	1,567	414	225	11,009	3,978
運動器	22,012	20,806	2,357	2,194	272	0	0	306	2,817	2,353	27,458	25,659
廃用	20,173	28,767	27,236	30,403	1,460	1,368	2,181	1,881	87	255	51,137	62,674
脳血管	53,967	41,140	11,269	8,942	19,711	19,811	19,424	21,503	793	1,641	105,164	93,037
合計 (単位)	97,147	90,713	44,304	44,950	23,910	23,215	27,858	25,453	4,111	4,474	197,330	188,805

時間内歩行試験 実施数(件数)前年比



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件数)
令和2年 検査数	5	2	7	8	2	4	4	6	2	3	2	5	50
令和3年 検査数	4	7	6	9	2	9	4	5	6	6	7	2	67

- ・在宅酸素療法を施行している患者、在宅酸素療法を検討している患者が主な対象
- ・年4回を限定(1月～12月)
- ・検査実施にあたっては、同一建物内に検査指示を出した医師が居て常に連絡が取れる状態であることが条件

令和3年度 リハビリ処方入院患者データ

リハビリ処方された患者数	606人
病状の変化により処方変更された数	17件
入院からリハビリ処方されるまでの平均日数	1.4日
リハビリ処方から開始されるまでの平均日数	0.4日
一般病棟からの退院または終了患者数	297人
平均入院日数	28.4日
回復期リハビリ病棟へ転棟患者数	221人
回復期リハビリ病棟転棟までの日数	10.9日
療養病棟へ転棟患者数	51人
コスモス病棟	13人
ひまわり病棟	38人
療養病棟転棟までの日数	29.5日

令和3年度 一般病棟・療養病棟からの退院先の内訳

一般病棟	退院先	人数	入院平均日数	入院時FIM(点)	退院時FIM(点)
	自宅退院	168	23.4	67.0	69.1
	医療機関へ転院	46	39.4	32.1	32.7
	施設	51	27.7	35.4	35.2
	死亡	31	29.2	39.8	34.8
	終了	1	—	52	42

コヌモヌ病棟	退院先	人数	入院平均日数	入院時FIM(点)	退院時FIM(点)
	医療機関へ転院	4	141.2	21.0	21.0
	施設	1	64	22.0	22.0
	死亡	3	73.6	21.3	22.3

ひまわり病棟	退院先	人数	入院平均日数	入院時FIM(点)	退院時FIM(点)
	自宅	5	78.8	26.2	29.8
	医療機関へ転院	7	124.7	23.8	23.2
	施設	2	172.0	18.0	18.0
死亡	15	48.1	31.9	26.4	